

国際教養学部(小論文) 問題解説

□■ 出題意図・評価方法・評価ポイント

本問は、数値化されることで客観性が高められるとの認識が広まっている現代社会が抱える問題点を扱った課題文を用いて、大学の学修に必要な読解力・論理的思考力・文章表現力を総合的に評価することを目的としています。

- (1) 課題文の中で示された学力偏差値について、筆者の主張を正確に捉えた上で簡潔にまとめ、表現できているかを評価します。
- (2) 課題文の主張の核心である「リスク計算を重んじる社会」について、課題文の中から筆者の主張を正確に読み取り、簡潔に表現することができているかを評価します。
- (3) 筆者が主張する「数字が支配する世界」の内容を正確に捉えた上で、それを批判的にせよ、肯定的にせよ、自らの課題としてどのように引き取り、どのような考えを持ったのかについて、説得力のある文章で表現できているかを評価します。

□■ 受験生へのメッセージ

今回の課題文は、高校生向けの新書から取り上げたものです。話題も偏差値などみなさんに身近なものが含まれていますが、われわれが無意識に信じてしまいがちな数字の持つ問題について警鐘を鳴らすものです。もちろん、みなさんの中には筆者の主張に賛同した人もいるでしょうが、そうは思わなかった人もいたはずです。

どちらの立場に立つにせよ、重要なことは筆者が何を主張しているのか、その理由は何なのかを正しく理解すると同時に、それを自分自身がどのように評価するのかという点です。すなわち、これは「批判的に物事を捉える」ことの大切さを示しています。世の中には様々な情報が溢れていますが、それらを単純に鵜呑みにすることなく、批判的に捉えることが重要になります。

また、報道や報告書などで触れるデータを正しく読み取り、活用するためには、まず、データの正しい読み方を知らなければなりません。そうしたデータに関する能力も、批判的に物事をとらえる前提として、とても重要です。